

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 西浅井中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒529-0704
滋賀県長浜市西浅井町塩津中 312

E-mail nishiazai-ms@nagahama.ed.jp

Website http://nishiazai-ms.nagahama.ed.jp/

児童生徒数 男子 56 名 女子 78 名 合計 134 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. 実践事例について

本校では「ふるさと学習」を環境教育の柱と捉え、「山門水源の森」をフィールドに、1年生は自然観察、2年生はササユリの播種とウッドジョブ事業、3年生は林床整備作業を行った。学校だけにとどまるのではなく、地域と積極的に連携を図りながら、環境教育を進めている。そして、地域の豊かな自然や限りある資源を守ろうとする実践的態度・心情を育てている。また、本校ではユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動が続いている。西浅井町の全家庭を自治会ごとに組織された「自治会生徒会」が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。その他にも、奥びわこ健康マラソンなど、地域で行われたイベントのボランティアに全校生徒が積極的に参加している。

2. 「山門水源の森」から学ぶ。

(1) 1学年の取り組み

- ① 日 時 6月10日(水) 9:30~12:00
- ② 参加者 1年生34名 教員4名 講師4名
- ③ 内 容 「山門水源の森の植物・動物を知ろう！」
- ④ 成 果

地域のボランティア団体「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」(以下、「引き継ぐ会」と連携し、一般入山者が立ち入れない山門湿原にも分け入り、湿原の成り立ち・植生等を知ること、生物多様性に富んだ森の実相を学ぶことができた。

・事前学習

「山門水源の森」に入る前に、「引き継ぐ会」の方から森について・動植物についての講義をお聞きした。山門水源の森は東日本・西日本どちらもの植物があることから、日本の中心であると言われること、そのため森にはいろいろな動植物が生息しており、生物多様性に優れているという内容であった。生徒たちは小学校の頃からよく「山門水源の森」における学習をしており、今回の学習でもその理解がより深まったようである。

・事後学習

今回の取り組みは1年生の宿泊体験の中に組み込んでいるため、事後に各自で聞いた内容を新聞にまとめる取り組みを行った。モリアオガエルの卵やササユリの絵など、実際に見たもの、印象に残った内容をまとめることでより今回の学習を定着させることができた。

(2) 2学年の取り組み

- ① 日 時 11月10日(火) 9:30~15:00
- ② 参加者 2年生54名 教員5名 講師5名
- ③ 内 容 「山門水源の森の保全活動を体験しよう！」
- ④ 成 果

「引き継ぐ会」のサポートで、ササユリの種播作業と林業体験(ウッド・ジョブ事業)を行い、「山門水源の森」の保全活動に取り組んだ。播いた種は約4,000粒にのぼった。ササユリが花をつけるまでに7年かかることや、鹿による食害を防

ぐために対策が講じられていること等を知った。また、ウッド・ジョブ事業では、倒れた木の枝を伐採して手入れを行う体験を行い、住みよい森を保つために必要な作業について学んだ。

・ 道徳での事前学習 ～山門湿原を守った生徒たち～

道徳で「山門湿原を守った生徒たち」（自作資料）を通して、保全活動への実践意欲を醸成する学習を進めた。内容は、本校が初めて山門水源の森の保全活動のボランティアに参加したときのエピソードを資料化したものである。この資料を読んだ後、ゲストティチャーの方に保全活動への思いを伝えてもらった。

（３）３学年の取り組み

- ① 日 時 ６月２日（火） ９：３０～１２：００
- ② 参加者 ３年生５４名 教員５名 講師５名
- ③ 内 容 「山門水源の森をきれいに整備しよう！」
- ④ 成 果

作業は、林床整備（除伐された枝等の片づけ）、「堰」づくりのための石運び、林道に木材チップを敷く等であった。この活動により、このまま人の手が入った湿原や森は、人が入り続けなければ荒れてしまい、生物多様性を保持できなくなること学んだ。また、「山門水源の森を守っていくのは、次の世代である自分たち」との自覚・認識を高めることができた。

（４）成果

生徒が実際に地域に出かけ、地域の自然に触れ、地域の方々と一緒に活動することは、生徒の学習意欲を高めるとともに、地域への関心を高めることにつながっている。少しずつではあるが、地域の自然を守ることに誇りをもち、良いことをしていると感じる生徒が増えてきている。学校だけで環境教育を行うのではなく、地域と連携を図りながら環境教育を進めることで、生徒が地域に主体的に関わりようとする意欲が高まっていることは、最大の成果といえる。また、保全活動についての西浅井中学校の取り組みを、ホームページや地域の発表会で地域内外に発信していくことができた。

（５）課題

山門水源の森の保全活動では、現地での体験学習が天候に左右されることから、各学年とも天候の安定した時期に学習を設定したり、予備日や事前学習事後の振り返りの時間の設定や内容を工夫したりすることが重要である。

今年度は、事前・事後の学習活動が深くできなかったのが、来年度はそこを充実させていきたい。

３．書き損じハガキの回収

本校では、ユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を続けている。この取組は１０年以上続いている。今年は、２月５日～１１日の期間に西浅井町の全家庭を自治会生徒会が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。集まったハガキは、４５１４枚、未使用切手は１３３枚である。このハガキは、カンボジアやネパール、アフガニスタンなどに寄付され、識字教育のために大いに役立っている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
☐ 時間外活動の時間を使用

☐ ユネスコクラブの活動として実施

☐ その他（ ）